

H16台風10号による豪雨災害の事例（徳島県阿津江地区）

- 平成16年7月の台風10号に伴う豪雨により、大規模地すべりが発生し、崩壊した土砂により河川が閉塞し、対岸の国道193号が不通になるなど甚大な被害が発生。
- 当初、徳島県が地すべりの復旧を行っていたが、崩壊地上部に大規模で不安定な地すべりブロックが存在することが判明。大規模な崩壊が発生した場合、土砂流出に伴う河川の氾濫により甚大な被害の恐れ。
- 規模が著しく大きく高度な技術を要する大規模地すべりについて、徳島県からの要請を受け、平成20年度から民有林直轄治山事業に着手。

大規模地すべりの発生

徳島県



崩壊地源頭部状況



大量の土砂が対岸斜面を駆け上った状況

国道193号被災状況



徳島県による復旧対策

徳島県により復旧対策に着手したが、崩壊上部で大規模な地すべりブロックが判明。

直轄事業の実施についての県からの要請

事業規模が著しく大きく高度な技術を要することから、県は国に対し直轄事業の実施を要請。

県からの要請を受け、阿津江地区における民有林直轄治山事業の新規着手。



崩壊地の復旧状況



下流保全対象
なかちよう さかしゆう
(那珂町坂州)